

PHD LETTER

120

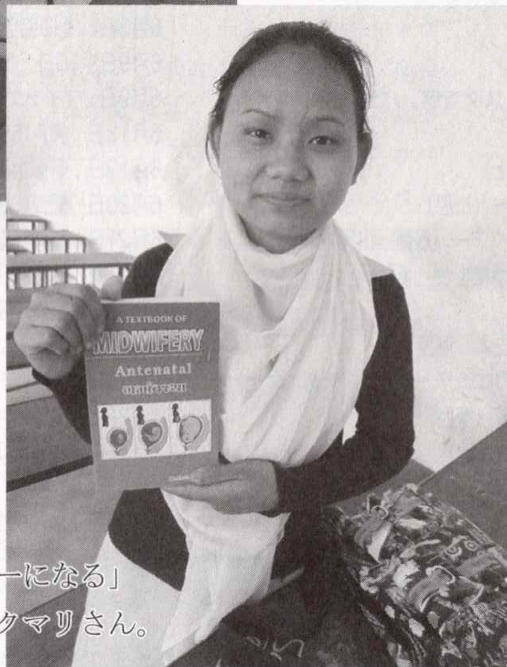
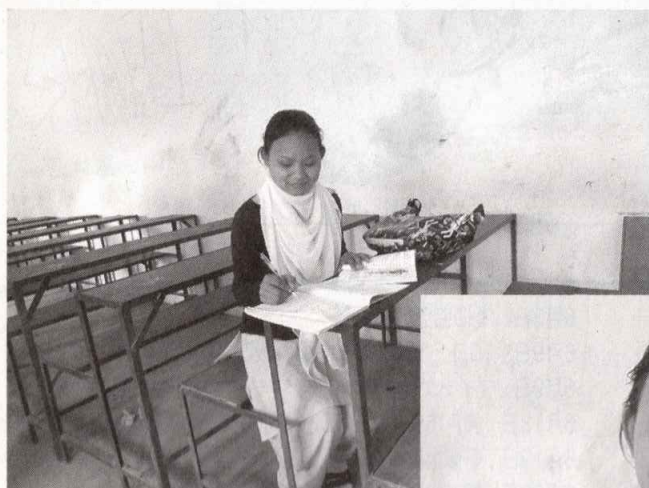
PEACE, HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT

2012.7

PHD運動とは1962年よりネパール、東南アジアを中心に医療活動に従事した岩村昇医師の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげて、平和 (Peace) と健康 (Health) を担う人づくり (Human Development) をすすめ、共に生きる社会をめざし、1981年からはじまりました。

発行：公益財団法人PHD協会
住所：〒650-0022 神戸市中央区元町通5-4-3
元町アーバンライフ202
TEL 078-351-4892 FAX 078-351-4867
E-mail: info@phd-kobe.org
URL: http://www.phd-kobe.org
郵便振替口座：財団法人ピー・エイチ・ディー協会
01110-6-29688

- 就任挨拶 事務局長 坂西卓郎
- PHD職員はこんな人！
- 新入職員、国内研修生ご紹介
- 研修生レポート 30期生紹介「研修生の背景と研修したいこと」
- ネパール帰国研修生、活動報告
- エリザさんの洋裁の研修を受け入れて、感じたこと
洋裁研修指導者：トルハースト山崎直子さん



「村の皆のためにヘルスワーカーになる」
と言ってガハテ村に帰ったミンクマさん。

独力で道を切り開き、今は専門学校に通い
寝る間も惜しんで猛勉強中。
手に持っているのは助産の教科書と大きな夢。



ネパール バネバ 撮影：T.sakanishi

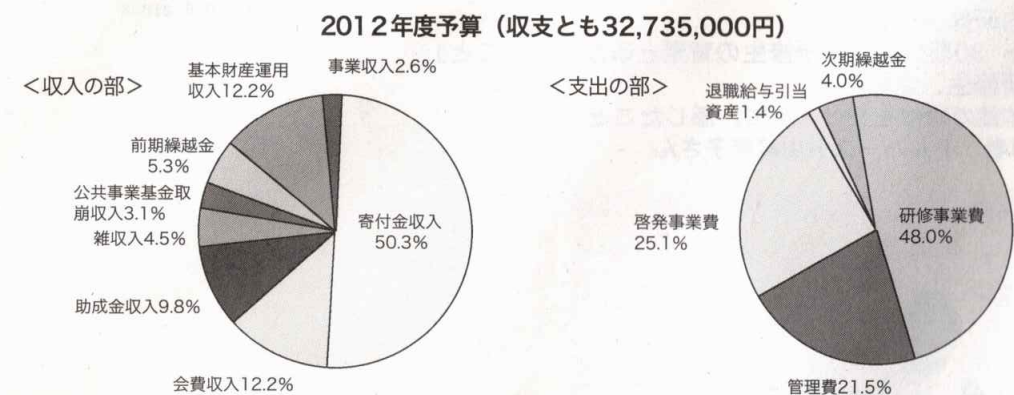
2012年度 事業計画

■方針・計画

◆PHD協会はどこへ向かうのか？

新体制になり、PHD協会は転換期を迎えています。岩村先生のメッセージからもう一度学び、私たちが進む道を今年1年かけて考えていきます。

評価指標-□中期計画の策定



【研修】

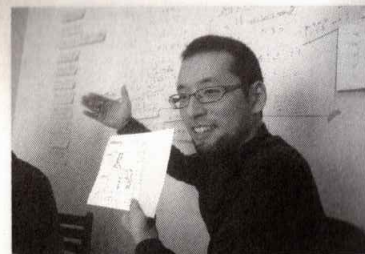
◆帰国後の活動促進を意識する

研修は研修生が帰国後に役立てるためにあります。よって帰国後の活動につながる研修の組み立てを心がけます。

具体的には指導者との話し合いを通じて研修生の状況を伝え、また習得できる内容の絞込みを行う。また帰国後の活動につなげるために事務所で研修ふりかえりを着実に実施する。

評価指標-□研修生の習得度

- 協同組合促進のための研修の実施
- ふりかえりの実施回数



研修生にファシリテーション研修を行う坂西

◆事務局長に就任しました

5月28日の第4回理事会にて正式に承認を得て、私、坂西卓郎が事務局長として任にあたらせていただくことになりました。経験不足、能力不足は重々承知ですが、皆様のお力をお借りしながら、持てる能力、財、時間の一部を他者のために捧げるというPHD運動を実践していきたいと思えます。皆様、今後とも平和と健康を担う人づくりにご協力お願いします。

◆私とPHD協会の関わり

PHD協会には、2000年頃からボランティアとしてPHD協会に出入りし始めました。神戸出身の私は地元で国際協力に関わる方法を探していました。最初に出会った研修生は18期生のブンシーさん(タイ)にリンダさん(PNG)。リンダさんの「日本の森を見てびっくりした。だって遠いPNGまで日本の会社は木を伐りに来るから、日本には木が一本もないのかと思っていた」という言葉には衝撃を受けました。

◆人生を変えた水俣

2003年になり、その年国内研修生としてお世話になりました。海外研修生はエリさん、ケンタウエさん、アンディさんでした。3人と一緒に訪れた水俣は私の人生を大きく変えました。それまで私は「アジアの貧困は日本を始めとする先進国の大量消費生活が原因」、「物質的な豊かさは必ずしも幸せをもたらさない。だから研修生の村の質素な生活は素晴らしい」と考えていました。でも、私は物質的に豊かな生活の恩恵を享受しながら、「あなたたちは電気を持たない方がいい」とは口が裂けても言えない。でも、日本のようにはなっていない、という思いで悶々としていました。

事務局長就任のご挨拶

事務局長 坂西卓郎

◆研修生から学ぶ「国際協力」

しかし、水俣で一日、研修生と水俣や水俣病について学んだその夜、エリさんと素直に「お金だけでは幸せにならない」ということを話し合うことができました。

私の求める国際協力はここにあるのだ、と思いました。アジアの村で活動するだけが国際協力ではない、自分の消費生活を見直すこと、水俣など日本の負の経験を伝えることも直接的ではないが根源的な国際協力と言えるのではないかと。それまでアジアに行きたいと願っていた私は急遽方針転換し、水俣に移住することになりました。



水俣でPHD研修生に説明を行う

その水俣では5年間にわたり、水俣病研修を通して研修生と共に日本の物質的な豊かさの弊害について考えてきました。また結婚し、子どもを授かるという幸せにもめぐり合いました。水俣で研修生と出会うというのも魅力的でしたが、もっと深く関わりたいという想いが抑えきれず、2010年度からは当会の研修担当職員となりました。

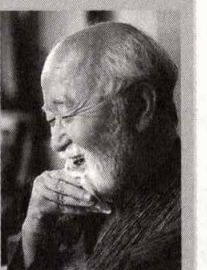
◆中期計画を策定します！

草地前総主事は就任のあいさつで「マグマのような思いを」と表現されました。若い私たちもそれに負けぬ熱い思いを持って活動に取り組みます。まず、私たちの意思を示すためにも今年1年をかけて中期計画を策定します。現在、JICA地球ひろばの「NGO組織強化のためのアドバイザー派遣制度」のサポートを受け、中田豊一さんにご指導をいただいています。3月号の会報でご報告したいと思います。

◆忘れられるような協力を！

具体案はこれからですが、私たちはこれからどのような道を歩んでいくのかを示すために、岩村先生が大好きだった英語の詩を紹介いたします。

住民の所に行って、彼らの中に住んで、その土地の気候、風土、習慣の中から生活の知恵を学び、相手の身になって考え、相手のニードに応じて自分を意識し、相手と共に生き、彼らが知っていることで始め、彼らが持っているものの上に築こう！



最後に
君が今最上の指導者であるならば
将来その事業が完成した時に
住民がこう言うようになる
「この事業を完成させたのは、
われわれ自身だ」と。

訳: 岩村昇

(引用: 共に生きるために・岩村昇著)

岩村先生はさらに次のように続けます。

「『昔々日本という国から医者みたいな男が来とった』などということは誰も覚えていないようなそういう100年後をもたらすように。」

正直に言えば、自分たちが関わったことに感謝してもらいたいという感情があります。岩村先生のような偉人でもなければ信仰心が強いわけでもない卑小な人間としては。

しかしながら、私たちは何のために活動を行うのでしょうか。感謝を述べてもらうためではありません。そのことを改めて肝に銘じ、「自分たちが関わってきたことを忘れられるような協力」を目指していきます。



- 3月4日 コープこうべ「ふれあいフェスタ宝塚」バザー
- 3月10日 第28期研修生帰国報告会
- 3月11日 米山奨学生歓送会(坂西、井上)
- 3月22日 国際ソロプチミスト神戸バザー(川原)
- 3月23日~4月1日 ネパール・スタディツアー(坂西、川原)
- 4月19日 アジア生協協力基金 活動成果報告会(坂西)
- 4月21日 篠山ナマステ会総会(井上)
- 4月28日 兵庫高等学校文化祭バザー(安本、藤原)
- 5月12日 ロータリー米山記念奨学生オリエンテーション(坂西、井上)
- 5月12日 日本語復習ボランティア説明会(坂西)
- 5月17日 神戸市シルバーカレッジ講義(坂西)
- 5月26日 関西NGO協議会総会(坂西)
- 5月28日 PHD協会理事会

- 6月8日 PHD協会評議員会
- 6月9日、10日 野草を食べる会(坂西)
- 6月9日 マイチケット夏のスタディツアー説明会(井上)
- 6月13日 神戸市シルバーカレッジボランティア報告会バザー(井上、安本)
- 6月19日 研修指導者会(坂西)
- 6月20日 関西国際交流団体協議会総会(坂西)
- 6月21日 聖和短期大学礼拝(井上)
- 6月21日 HYOCON総会(坂西)
- 6月23日 第30期研修生来日報告会
- 6月26日 阪神シニアカレッジ講義(井上)
- 6月28日、29日 NGO相談員連絡会議(坂西)
- 7月2日 神戸大学国際文化部講義(坂西)
- 7月3日 神戸市地球環境市民会議(坂西)
- 7月4日 JICAアドバイザー中田豊一氏による指導
- 7月14日 ネパールスタディツアー説明会(坂西、井上)

野草を食べる会！

6月9日~10日

朝来市の大森昌也さん宅で、「野草を食べる会」に海外研修生、国内研修生が参加し、野草採取、苗取り、田植え、そして交流会を行いました。



◆参加して気づいたこと ~当たり前のことから離れてみると~

1日目、大森お父さんに苗取りの仕方を教えてもらうが上手にできない。ただ、一握り分の苗を集めて泥と雑草を落とし、長い根っこを短くちぎって藁で結ぶ、これだけだ。そして、小さな発見は一本の藁で意外に丈夫ということ。

しばらくして研修生たちに目をやると、流れるような手際の良さに驚く。次の日は、不耕起の田んぼで植え付け。お玉じゃくしやヤゴの多さに驚いていると、別の田んぼには大きな亀もいた。糸を使って等間隔に植えていく。深く植えずぎても浅く植えずぎてもダメ。僕はこの感覚がなかなか掴めない。これまた研修生たちは上手に植えていく。途中から長靴を履いての作業の方が大変だと思ひ裸足になる。田んぼの中は少し冷たくて気持ちいい。

この2日間、現代文明から離れた生活をした。すると、自分たちが当たり前に必要なだと思っていたモノは、本当に必要なのかと考えずにはいられなかった。

(国内研修生・藤原峻悟)

PHD職員はこんな人！

絵：松田 妙子さん

年度が変わり、事務所の体制も変わりました。
事務局長の坂西、川原、井上、新入職員芳田、今里の5人で事務局として仕事をしています。
PHD事務所へどうぞ、お気軽にお越し下さい！職員一同お待ちしております。

PHDでやりたいこと、実現させたいこと
関わってくれる人達が
やりがいと充実感を得られる
組織をつくるぞ
事務局長 坂西 幸郎

PHDでやりたいこと、実現させたいこと
一緒に考え、悩み、
笑いあえる仲間を増やす。
国内と研修生の間に。
啓発担当 若田 弓生希

PHDでやりたいこと、実現させたいこと
PHD研修生が「相談してみようかな？」
PHDに連絡する方が「寄ってみようかな？」
と、思ってもらえる場所にする。
総務・財務担当 井上 理子



PHDでやりたいこと、実現させたいこと
互いに刺激し合い、
気づきを共有し、
それを共に広めること!!
研修担当 今里 拓哉

2012.6.23.
芳田 弓生希

PHDでやりたいこと、実現させたいこと
人が集い、語り合い、
心の豊かさを得られる
場所にする。
啓発担当 川原 桂

16期国内研修生です。海外研修生と一緒に学びます！



お昼は毎日研修生と神戸YMCAで
食べていました

安本真理子 (やすもとまりこ) さん

学生時代からボランティアとしてPHDに関わり、約10年になりますが、昨年末、会社員を辞めたのを機に、国内研修生に応募しました。自分の生き方を見直す1年にしたいです。

ランマヤさんに「私より年下の妹みたいだと思っていた」と言われ、年相応の大人っぽさが欲しいと思う最近です。実年齢は…直接聞いてやって下さい。どうぞよろしくお願いいたします！

藤原さんが紹介する安本さん
◆姿勢がよく、礼節な人

安本さんはPHD内の人たちの中では、座っている時の姿勢が群を抜いて良い人です。1kmほど離れていても、「ん？あの姿勢って…安本さん！」って分かるくらい。そして、様々な仕事も、そつなくこなして本当に見習うべき点が沢山ある方です。趣味である洋裁で普段着も作っています。そして、お弁当は玄米と野菜が中心です。健康的でございます。と、変な紹介になってしまいましたが、一緒にいるとのんびりした気分させてくれる人です。

藤原峻悟 (ふじわらしゅんご) さん

大学では国際協力を専攻しています。そして、昨年の12月「PHD協会をテーマにした大学の卒業論文を書きたい」と相談をしに行き、そのことがきっかけとなり国内研修生に応募させていただきました。海外研修生と共に有機農業などを学び、彼らの視点と自分たちの視点で今の日本を覗いていきたいと思っています。全てを学びの場と考えて日々の自分を成長させていきたいと思っています。

安本さんが紹介する藤原さん
◆「日々は学習。」

藤原くんは大学で国際協力を学び、畑部で野菜を育てる、まさにPHDな大学生。研修生とのコミュニケーションが抜群に上手く、頼りになる存在です。研修生の残したご飯も平らげます。星野道夫に憧れ、夢は冒険家という素直ないい子です。「はがきって切手いくらでしたっけ?」、「テレホンカード、使ったことないです」と今時の若者の発言も。清貧を貫き、お昼ごはんは食パンだけ。差し入れ大歓迎です！

新 入職員、ご紹介

井上が紹介する

今里 拓哉

(いまさとたくや)

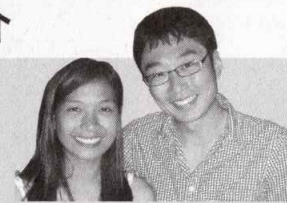
愛される人、今里拓哉！

～出会ったら最後、バキューマー今里～ お連れ合いさんのジェンさんと

その名の通り、バキュームのように人を惹きつける人。ネパール、フィリピン、被災地と様々な国際協力の場に身を置き、たくさんの働きをされてきた今里さん。

どんな環境にも適応し、体ひとつで出て行く。自分の居場所を見つけ、その時、その場所にいる人と調和し、共に楽しむことのできる人。親しみやすく、つつい何でもしゃべってしまいそうになるのでご注意ください。

が、出会ってしまうと最後…感化されて「こんな道に進むはずじゃなかった」という私のような被害者は数知れず。それでも駐在でフィリピンに行く際、空港には溢れんばかりの見送りが。みんなに愛される人、今里拓哉。ファンは世界中に!!



坂西が紹介する

芳田 弓生希

(よしだゆぶき)

芳田弓生希、再来!!

～心の熱い、世話焼きよっちゃん～

一度聞いたら忘れない名前。「弓のようにしなやかに希望を持って生きる」との両親の思いを受けてこの世に生を受ける。

アメリカの大学院を経て、2000年から05年まで当会に在職した経験を持つ芳田さんが、当時の情熱をそのままにカムバック。復帰前でも研修生の活躍や苦悩を聞いては涙する熱い心の持ち主。

職場では人呼んで「校正の鬼」。タイ・スリンに居る前任者の指導の賜物か、校正にかけては右に出るものなし。しかして、その実態は畑仕事をこよなく愛す人情家。以後、お見知りおきを！



30期生研修生レポート

研修生、それぞれの背景と研修したいこと

ランマヤさん (19歳・ネパール)



じゃがいも畑を耕すランマヤさん

◆しっかり者でお姉さんの存在

ガハテ村のアゲという地域から来ました。10年度の研修生ミンクマリさんとは昔からの友だちで「どうすれば村がよくなるか」を話し合ってきた仲だそう。『ミンクマリさんが保健の勉強をしているから私は農業をしっかり勉強してみんなの役に立ちたい』と意気込んでいます。

研修したいこと

■ 有機農業

私は村の皆のために勉強するために日本に来た。だから皆が作っている、じゃがいも、トマト、米の作り方について学びたい。

村ではたくさん農薬を使う。農薬で病気になった人も多いため健康のためにも有機農業を勉強したい。

■ 協同組合

村にはビショさんが作った組合がある。組合を通じて、どのように販売していけるかに興味がある。村の皆と協力してやっていきたい。



ランマヤさんのお母さんと弟と家の前で

■ 子どもの栄養

子どもの健康についても勉強したい。何を食べると頭の発育にいいのか、育て方などを勉強したい。村のお母さんたちはよく知らないと思う。

■ 滞在家庭

三宅康平さん、幸江さん
(神戸市北区)



はじめから日本語がとても上手で、コミュニケーションもとれて、驚きました。妹ができたようで、とても楽しいです。

はじめて来た日の夜に歌をうたってくれました。

アチャンマさん (18歳・ネパール)



アチャンマさんの玉ねぎ畑で

◆おちゃめなムードメーカー

ガハテ村のダイレニという地域から来ました。生活状況は厳しいようですが、農業の腕前は上々との評判の持ち主です。

ビショさんが作った協同組合のメンバーでもあり、面接では組合の課題として「販売」を挙げて熱い想いを語った熱血漢でもあります。ただ普段は冗談を言ってよく笑う歌と踊りが好きな18才です。

研修したいこと

■ 有機農業

農業についてよくわかっていない。例えば、どの季節に何を植えるのか、どのような土がいいのか。また、薬を使わずに作る方法を勉強したい。

■ 保健衛生

健康について勉強したい。問題だと思っているのは衛生面と食事の時間。衛生面は村での掃除やお皿の洗い方、食事は食べる時間のことが心配。

■ 協同組合

食べる分以上に収穫があった場合、都会でどのように販売ができるのか学びたい。



アチャンマさんと家族

■ 滞在家庭

大串久則さん、いづみさん
蓮くん、紗子ちゃん
(西宮市)



子どもたちと仲よくしてくれるので、家の中が前より明るくなりました。

子どもたちもアチャンマのお手伝いをしたいという気持ちを持って、お互いに思いやりを示せて、とてもいい関係に見えます。

食事の準備や片付け、洗濯干しと何でも「やります」と声をかけてくれて、その姿を子どもが見て、以前より子どもたちが手伝いをしてくれるようになりました。

アドリザルさん (通称：デリさん) (35歳・インドネシア)



とうがらしを栽培しています

◆経験豊富な精神的支柱

インドラさん(10年度)に続くタラダマ村からの研修生です。村では農業グループに所属し、青年団の議長などを務めています。父を病気で亡くし、長男として母や兄弟を支える苦労人でもあります。

現在は日本語に苦労していますが、豊富な農業経験があるので、帰国後は研修での学びを活かしてがんばってけると期待しています。

研修したいこと

■ 有機農業

村では農薬と化学肥料が一緒になったバックを使っている。高いし、体にもよくないので、止めたいけど、他の人が使うからやめられない。

■ 保健衛生

農薬や除草剤の影響だと思うが、村ではぜんそくのような咳の病気や皮膚病が多い。皮膚疾患は3年ほど前から増えてきている。

■ 養鶏

常時、10~30羽を卵と肉用に育てている。どうやって健康的に成長をさせるか。どのようなエサをあげるのがいいか勉強したい。



デリさんと家族

■ 滞在家庭

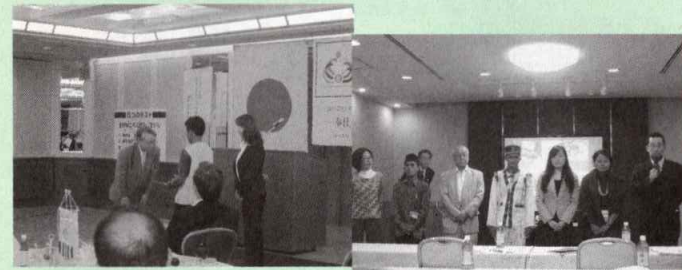
倉光和夫さん、百合子さん、千夏さん
(神戸市東灘区)



デリの第一印象はザ・インドネシア人。よく日焼けした肌、ニコニコした口元からは白い歯がこぼれそうでした。緊張しながらも笑顔で、わかっていない日本語にも平気でミナン語で照れ笑い。こちらでも思わず苦笑い。「まっ、なんとかなるでしょ!」という気持ちになりました。

毎日持ってくる宿題がどんどん難しくなりますが、できる限り勉強に付き合ってもらいたいと思わせる意欲で上達が感じられ、うれしく思います。

◆今年もお世話になります!! ローターリーが生み、育ててくださったPHD ロータリー米山記念奨学会



神戸中ロータリークラブの月例会で奨学金を頂くデリさん

米山記念奨学生オリエンテーションの様子

◆大きく、そして長いご支援

1985年から27年間、ずっとPHD協会を支えていただいているロータリー米山記念奨学会。2012年度研修生も米山記念奨学生として受け入れて頂き、その数は73人にのぼります。国際ロータリー第2680地区の中から奨学生1人に対して1つのクラブがお世話クラブとなってご支援いただいています。

月1回お世話クラブの例会に出席し、ロータリークラブの方々と交流し、例会の際に手渡しで奨学金を頂いています。また、各お世話クラブには個人的ケアをして頂くカウンセラーさんがついて下さっています。

◆2012年度お世話クラブとカウンセラーの方々◆

- アチャンマさん: 篠山ロータリークラブ
カウンセラー: 廣田実光さん
- ランマヤさん: 神戸中ロータリークラブ
カウンセラー: 吉田泰弘さん
- デリさん: 神戸南ロータリークラブ
カウンセラー: 新玉正男さん

ネパールからの研修生アチャンマさんが例会に出席する篠山までの車中、ビショさん('09年度)、ウルミラさん('10年度)やラメシュさん('11年度)から篠山ロータリークラブの家族例会に呼んで頂いたことや、いつも温かく迎えて下さる雰囲気などについて聞いていたと、私に話してくれました。例会では実際に研修生をお世話していただいた歴代カウンセラーさんと出会い、米山奨学生に連なる一員として受け入れて頂いたことへの感謝を噛み締めるような表情を浮かべていました。

デリさんは日本で学びたいことやロータリークラブの方々と出会えた喜びを、ランマヤさんは帰国した研修生と力を合わせて村のためにがんばりますと、奨学生としての自覚と感謝の気持ちをそれぞれの例会で述べてくれました。

1年間、どうぞよろしくお願いたします。

(総務・財務担当 井上理子)

ネパール帰国研修生、短信

ウルミラさん
(2010年度)



先日、取りあげたという赤ちゃんと一緒に

◆助産師として活躍中
～愛があります～

現在ウルミラさんはSSSのクリニックで大忙しの日々。クリニックの助産師は2人しかおらず24時間体制。ウルミラさんも基本的にはクリニックに住

み込みながら働いています。

ウルミラさんは「このクリニックは私立で公立よりも給料が安い。だから私も他所で働きたくなるが、やっぱりここが好き。10年働いてきたから、患者さんやお母さんたちも知っている人ばかり。ここに愛があります」と語ってくれました。

SSSでは家族計画の啓発活動を行い、村ではボランティアで女性と子どもものグループを作って活動しています。学校に行かず仕事をしている子どもたちが教育を受けられるような啓発活動に特に力を入れています。



家族計画についてレクチャーしてくれるウルミラさん

ウルミラさん、おめでた!

ウルミラさん、3月の訪問時で妊娠3ヶ月でした。つまり出産予定は10月頃。助産師として1,000人以上の赤ちゃんを取り上げてきたウルミラさん、ついに自分の番となりました。ただ「ここで産むから出産間際まで働きます」と言っており、ちょっと心配。無事の出産を願っています。

ビショさん
(2009年度)



組合のメンバーに報告するビショさん

◆農業協同組合で奮闘中
～組合に期待すること～

3月27日に行われたガハテ村の農業協同組合のミーティングではビショさんが会計報告をするなど中心的な役割を担っていました。この日の参加者は

組合長を含む約10名。

自己紹介の後、みんなで組合の将来について考える時間をもちました。

「組合に期待すること」を聞いていき、グループ分けをすると協働、販売、貯蓄、協同購入の4点。女性メンバーの声も拾いたいということで、一人に三票を渡し、それぞれ置いていってもらいました。結果、協働→共同購入→貯蓄→販売の順となりました。

ビショさんは現在、農業資材の共同購入のためにメンバーから月50Rsを集め貯蓄しています。「15万Rsになったら協同購入を始めたい。みんなに行き

渡らないとケンカになるから」と語っていました。

また、ビショさんはカトマンズ連絡会に所属し、セティディピ小学校の成績優秀者に学用品の贈呈をするなどの活動も行っています。



ギャン組合長が「期待すること」について投票中

ミンクマリさん
(2010年度)



授業中の様子 撮影：前田紀子さん

◆苦学生ミンクマリさんの日常
～保健師への道 vol.3～

村のみんなのためにヘルスワーカーになりたい」と言って帰ったミンクマ

リさん。PM. vol. 2でご報告したように現在は専門学校で勉強中。続報です。

睡眠時間4時間であとは勉強漬け。学校のあるバナパは都会で、学校の前に映画館もありますが「行ったことない。忙しいから」との返答。ツアー参加者で保健師でもある寒者さんも「この内容を一年半でするのは大変」との感想でした。

「大変だけどね、勉強は楽しい」とやりがいを語ってくれました。座学も最終段階。近く実習が開始するようです。

ミンクマリさんのある日の生活

- 4:00起床
- 4:00-7:30 自習
- 7:30-9:00 朝食準備(交代制)と食事
- 10:00-11:00 助産B
- 11:00-12:00 看護
- 12:00-13:00 保健
- 13:00-13:30 休憩
- 13:30-14:30 症状研究
- 14:30-15:30 助産A
- 15:30-16:30 コミュニティヘルス
- 17:00 帰宅
- 17:00-19:00 自習
- 19:00-20:00 食事
- 20:00-24:00 自習

ネパール・スタディツアー報告
-日本で学んで帰った研修生たちに会いに行こう!
3月23日~4月1日



ガハテ村の女性研修生3人が揃いました

スタディツアーに参加した大きな目的は、篠山の我が家へ有機農業の研修に来てくれたウルミラさん(2010年度)、ミンクマリさん(2010年度)、パッサンさん(2011年度)に再会することだった。そして、彼女たちを育んだネパールの地を見て、これから受け入れるであろう研修生のために、自然、農業、環境などを見ておきたかったからである。



草を運ぶパッサンさん

パッサンさんやランマヤさん(2012年度)の畑を見せてもらう。ミンクマリさんの家の畑に比べると、少し標高が高い事もあってか、水が不足しているように思えた。絵葉書で見るように、山の上まで続く段々畑は人間の力を感じた。その一方で、木が伐採され裸地になり、さらに乾季の終わりに近く、赤土がむき出しになり砂埃がひどいのが気になった。草木が燃料や家畜の餌として必要であるのも理解できるが、山全体に緑が少なく、山の保水力が少なくなり悪循環しているように思えた。焼き畑にするため残り少ない木々が焼かれているのを目の当たりにして、こ

の木々は大きくなるのに何年かかるのか、その間にガハテ村がどう変わっていくのかと思うと悲しくさなってきた。篠山の我が家にミンクマリさんが来た時「この木や草を持って帰りたい。」と言ったことが理解できた。

パッサンさんと約束をした。毎日の天気と温度を記録して、来年度の研修生に渡してくれることである。ガハテ村の農業を一緒に考えていく手掛かりになるのではないかと考えている。

(農業研修指導者・圓谷豊子さん)



パッサンさんと参加者の寒者恵さん(左)と

ユース 「PHD YOUTH」健在!!

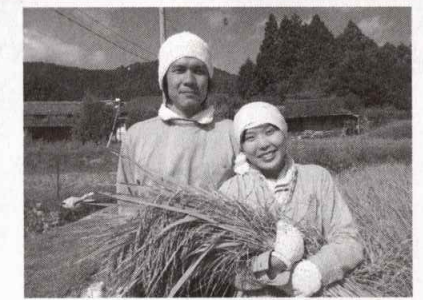
2006年頃、当時学生さんたちで構成された「PHD ユース」。今もなお、PHDと繋がる人たちの紹介と短信です。



菅原宗晋さん 安本真理子さん 増本一朗さん

こちらの3人は10年ほど前、それぞれ学生だったときにPHDのボランティア活動を通じて知り合いました。そして、国内研修生やインターン、事務所ボランティア、スタディツアー参加者など10人ほどでつくられた「PHD ユースチーム」で、セパタクロー大会や農作業など、研修生たちと交流をしてきました。当時学生だった彼らもそれぞれの道を歩いていますが、今もなお、会報の編集委員やソディメンバーとして、PHDで活動してくれています。

こうして、PHDに繋がり、集ってくれる人たちはPHD協会の宝です!新たなユースもどんどんPHDに出入りして、PHDを盛り上げて欲しいとおもいます。



松平(旧姓:上田)浩代さんと久也さん

06年度国内研修生の松平浩代(旧姓・上田)です。現在は和歌山県田辺市の中辺路という自然に囲まれた地で、ブルーベリー農家の方と結婚し、まさに憧れの生活を満喫しています!山で採れた山菜や自分で育てた旬の野菜を食べられるのは本当に幸せ。自分で売り方や加工の仕方を考え工夫する「手作り」の楽しさは、研修生たちの村での暮らしと似ているかもしれません。

PHD農業指導者のみなさんのように、きらきらと、周りにも活気を振りまくような生き方が私の目標です。

*松平農園のブルーベリー狩り!地方発送いたします。詳しくはホームページ <http://www.aikis.or.jp/~hibari-no-cocoro/> または、お電話09090486093まで。

研修指導者から

エリザさんの洋裁の研修を受け入れて、感じたこと

洋裁研修指導者：トルハースト山崎直子さん



エリザさんとの洋裁研修を通じての交流は、私にとって忘れられないものとなりました。

2009年のロザさんに続く2人目ということもあり、私は研修生の受け入れを快諾しました。PHD協会から私が依頼された研修の目的は、「エリザさんが洋裁の基礎知識と技術を身につける」というものでした。

エリザさんの裁縫の経験は「ボタンの縫い付けぐらい」と超初心者レベルでしたので、私は彼女にとって無理がないような研修計画を立て、研修をスタートさせました。

エリザさんは「村のために洋裁技術を習得する」という使命感に燃えていました。好奇心の強い彼女は特に電動ミシンに興味津々で、扱い方を覚えるとすごい速さで縫うようになりました。そのおかげもあって、研修は順調に

進み、ほぼ目標を達成できるというところまでできていました。



ところが、研修最終日に予期せぬことが起こりました。エリザさんは予定していた研修内容を拒否したのです。そして、30分間にわたって「私はこれがやりたい」と主張し、決して譲りませんでした。頑固な彼女を説得できなかった私はPHDに助けを求めました。そして今後、エリザさんの研修指導は出来ないと、したくない、ということをお伝えしました。

研修終了後も、私は「最終日のエリザさんの言動」が理解できなくて悩んでいました。

その後、私はPHD Movementの「エリザさん奮闘記」を読みました。そして、日本での生活及び研修中に彼女が何を思い、どのように取り組み、努力したか、を知りました。



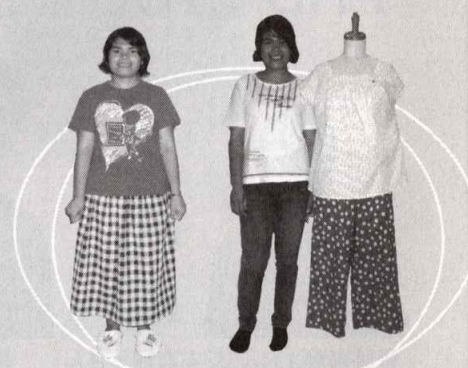
私が彼女を深く知るようになり、また彼女も努力して成長し、さらにPHDのサポートもあって、修復が困難と思われたエリザさんと私の関係を復活させることが出来ました。

帰国直前、別れの挨拶を兼ねて、私達は最後の研修を楽しく行うことができました。彼女は洋裁の技術だけでなく、多くのことを学び、成長したように思いました。

今回の体験で、外国人研修生と真に交流することの楽しさ、難しさが少しだけわかったような気がします。

エリザさんと出会ったことで、私自身も多くのことを学ぶことができました。

素晴らしい経験をありがとうございました。



素敵な作品がたくさんできました

読者の声 PHD Movement vol.4

◆PMの原稿、思わず涙してしまいました。タベ村の研修生たちのことも、ぐっとくるものがあります。

1年という長い間日本にいと、本当にいろいろあって、研修生の一つ一つの出来事、気持ちの変化などをきちんと受け止めて、研修生と向き合ってるんだなと感じました。

こういった裏話は、それぞれの研修生の特徴をととてもよく捉えられるし、PHDらしいですね。ぜひ続けてください。

今回の話しも、一見ずっと流れていきそうなことだけど、光を当てると実は深い。今後も大切に私達にも共有して下さい。小さな出来事を活字にしていくというのも、大切な作業です。頑張ってください。 Y.Y

◆前号のエリザさん奮闘記を読んで、知識や技術だけではなく、人としての成長に、とことん向き合う職員の方の姿勢に、感銘を受けました。きっと今も、同じような事態に遭遇したとき、日本での話し合いを思いだし、乗り越えてくれていると思います。

村人からの信頼の厚いcadreになってほしいです。 N.Y

ボーボーハンさんよりご報告



2008年度のミャンマーからの研修生、ボーボーハンさんは帰国後、有機農業の実践などに取り組みました。そして2010年11月にPHD協会元職員の三輪望さんと結婚。PHD協会としては研修生と元職員の結婚なので、きちんと皆様にご報告する義務があるかと考え、ボーボーハンさんにお話を聞きました。

だけで使うために少しだけ作りました。でも、木酢液だけでは難しい。

Q.日本での研修を終えて、ミャンマーで何をしていましたか？

愛媛の泉精一さんの研修で教えてもらった自然の薬を何種類かつくってみました。自然の薬は、アミノ酸、乳酸菌、土着微生物、木酢液です。

土着微生物は、竹藪の落ち葉と炊いたごはんを木箱の中に半分くらい入れて、布を巻いて、紐でくくって、落ち葉の中に埋めます。4、5日で菌が取れるので、とってきて、黒砂糖を瓶の中で発酵させてドロドロになったときに使います。

アミノ酸は、小さい魚の骨や内蔵と黒砂糖と混ぜて、発酵させてつくりました。それらを使い有機農業をしました。うまくいかないこともいくつかありました。

Q.例えば、うまくいかなかったことは何ですか？

ミャンマーは蒸し暑いから虫がたくさん来ます。自然の薬は、木酢液を家



土着微生物をつくり、有機農業に励みます

Q.三輪さんとはいつ結婚したのですか？

研修が終わり、帰国する前に恋人になりました。どうして好きになったのか不思議な気がします。自分自身も信じられない。そのことを考えて、眠れない日が続きました。夜遅くまで部屋の電気がついてののに気付いたホストファミリー（中林さん）のお母さんに「好きな人できましたか？」と聞かれました。ミャンマーに帰国する前に中林さんに三輪さんと2人で相談に行きました。

そして、2010年11月にミャンマーの私の村で結婚式をしました。研修生たちは皆お祝いに来てくれました。日本

◆ホストファミリーより

ボーボーハンがミャンマーに戻ってから3年が経過した。

この3年間に大きく変化したことがある。ボーボーハンが我が家にいるとき、日本女性と恋愛をし、帰国した年の秋にめでたく結婚した。当時はミャンマーの総選挙と重なり、国内が騒然となる恐れがあったので、結婚式への出席は叶わなかったが、盛大な結婚式で、村中の人々から祝福された聞いた。

その後、新妻のビザ問題などで紆余曲折があったが、2人は家庭を順調に築き、今年の春には2世誕生となった。

帰国した当時は軍事政権下で、グルー



来日報告会でお言葉をいただきました。

ブ活動をしようにも、当局から反政府活動の色眼鏡で見られ、活動を自粛してきているので、今後は、ミャンマーのPHD研修生と共に、日本研修中に学んだ知識を活かして、地域の発展に寄与して欲しい。

(ホストファミリー・中林清)

では、2011年4月に結婚式をしました。

Q.結婚しても村に住めないの？

ミャンマーでは結婚証明が出ないので、日本で証明をもらい、翌月5月にミャンマーに帰りました。しかし、外国人は村に住めないため、町のおばさんの家に住みました。

その後8月頃妊娠が分かり、2011年11月に三輪さんは出産のため日本に帰国し、私も今年の1月末に日本にきました。そして、3月8日に女の子が産まれました。日本の名前は「すみれ」、ビルマの名前は「ミヤースーヤディ」（エメラルドという意味）と名付けました。

Q.今後はどうしますか？

子どもが1才になったら、ミャンマーに帰ります。ミャンマーで三輪さんのビザが出たら、トゥントウンさん（94年度）が住むパティンジーに住んで、実家の畑で農業をしたいです。生活が貧しいことは怖くない。ミャンマーの方がゆっくりだから、ミャンマーがいいね。今は日本に住むつもりがない。だから、日本でどうやって住むかという話しは出てこない。ミャンマーでどうやって住むかとか、子どもをどうやって育てるかという話しを三輪さんと2人でしています。

◆PHD協会より

研修生は皆さんからの想いと物心両面での支援をいただき、日本で一年間研修をさせていただいています。

その目的は村の生活をよくするためです。その意味ではボーボーハンさんが現在日本に滞在しているのはPHD協会として喜ばしいことではないですが、上記のように将来的には村に帰り活動する予定なので、彼らの今後を応援していきたいと思っています。

「PHD LETTER」 4ページ増えました！

従来の8ページの中では、スペース上お伝えできないことがたくさんありました。「もっと帰国した研修生たちの活動を知りたい」とのご要望もあり、120号から4ページ増やし、全12ページでお届けします。

今まで以上に、研修生の活動報告、職員の想いを綴っていきます。ご意見、ご要望がございましたら、お寄せ下さい。今後ともご愛読下さいますよう、よろしく願いいたします。

2011年度の使用済み切手、 外貨コインの換金は22万円

多くの皆さまから集められ、事務所ボランティアさんによって整理され、換金された切手、外貨コインは2011年度、1年間で約22万円となりました。ありがとうございました。

これからもPHD活動資金として使用済み切手は必要です。より一層のご支援をお願いいたします。

〇月×日のPHD協会

一近ごろ始めたこと、始めること

国内研修生 藤原 よく噛むこと。来日2日目のランマヤさんに「ふじわらさん、たべます。はやい」と言われたのがきっかけ。継続の秘訣はランマヤさんの顔を思い出すこと。

職員 坂西 明石からの自転車通勤。片道20kmを1時間強。目指すはネパールツアー最高齢参加者、篠山の上田さん。83歳でもガハテ村に登れる健脚を。

職員 芳田 7年ぶりの都会暮らし。人とコンクリートが多く疲れる。しかし、家に帰ると一人で寂しいのが不思議。週末には岡山の実家に帰り畑作業に没頭する日々。

職員 井上 モノを増やさない生活。冬に購入したネパールダンスの衣装4セットが玄関口を占拠。帰宅の度に整理整頓を思うがができず。衣装で部屋が埋もれるなら本望？

国内研修生 安本 お弁当をつくること。目的は健康と節約。YMCAで研修生と一緒に昼食を楽しむ。本人は「適当」と言うも、藤原は「栄養バランスめっちゃいい」と絶賛。

職員 川原 ランニング。動機はお腹まわりの変化。休日の夕方に10～15分、家の近所を連れ合いと一緒に走る。爽快。気分もリフレッシュされ、夕食と晩酌がいつもよりもすすむ。

(身長が高い順)

制作協力：菅原宗晋 増本一朗
-再生紙を使用しています。

PHD NEWS

◆会費・ご寄附寄託状況

| | | | |
|-------|----|------|------------|
| 2012年 | 2月 | 62件 | ¥813,565 |
| | 3月 | 176件 | ¥1,492,429 |
| | 4月 | 61件 | ¥553,500 |
| | 5月 | 57件 | ¥1,379,590 |
| | | 356件 | ¥4,239,084 |

上記の通り多くの皆様より貴重なご浄財を賜りました。皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

◆活動支援金のご報告

前回のレターで、帰国した研修生の活動をご支援いただき、活動支援金を募りました。6月末時点で、36名の方から61口、31万円の支援金をいただき、目標額30万円を達成することができました。皆さまのご協力、ありがとうございました。

支援金を頂いた方には、別途帰国研修生の活動報告書をお送りさせていただきます。

◆JICAのアドバイザー派遣制度に採択されました

算根交差

PHDとの関わりは昨年シルバーカレッジに入学し、ボランティアグループに入会してから始まりました。当初は『ボランティアに頼り過ぎでは？』と活動に疑問を持っていましたが、エアコンの節約使用や、コピー用紙の節約、また職員の方々の研修生への献身的な姿を見るにつけ、元町近辺に出かけた時には少ない時間でもいいからと、切手整理などを手伝うよ

専門分野の知見をもったアドバイザーが、組織強化のために必要な助言・指導を行うJICA地球ひろばの「NGO組織強化のためのアドバイザー派遣制度」に採択されました。今年度いっぱい中田豊一さんにご指導いただいたとき、PHDのミッションについて考え、中長期計画を策定していきます。

◆2012年度も外務省



「NGO相談員」を受託しました

国際協力・交流、NGO/NPO、ボランティアなどについて、ご相談にお応じます。出張サービスにも出向きます。どうぞご活用ください。

◆今年度も生協総合研究所より助成をいただきました

昨年に引き続き、生協総合研究所の「アジア生協協力基金」から12年度助成をいただきました。ありがとうございます。

◆年末年始のタイ・スタディツアー

今年の年末年始も北タイ、カレンの村を訪れます。草木染めの布を織る女性グループとの交流をしてみませんか。日程：12月23日～2013年1月2日

うになりました。海外研修生との触れ合いで、高度成長時代を駆け抜けてきた私たちは、なにか大切なものを置き忘れてきたのではないかと反省させられました。帰国間際の交流会の時に『日本から持って帰りたいものはありますか？』と聞かれて、『いいえ、何もありません。持って帰っても村では使えませんから。自分たちの村にあるもので生活していきます。』って言われた時には、近代化と便利さを追求してきて、いい気になってきた私たちの傲慢さを感じさせられ、恥ずかしい思いになりました。(信)